



利根中央病院だより

きらめき



第57号
2020年 秋号

発行責任者 利根中央病院 院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL：0278-22-4321（代表）
FAX：0278-22-4393
URL：https://www.tonehoken.or.jp/

小児科の体制について

小児科は常勤医師3人体制で、新生児を含めた小児の外来・入院診療を行っています。また、群馬大学や群馬県立小児医療センターなどより応援をいただき、多くの専門外来（内分泌、心臓、喘息・アレルギー、神経、消化器、腎臓）も開設しています。

群馬県において肥満傾向児の出現率がほぼすべての年齢で全国を上回っていることから、生活習慣病予防対策として2018年より肥満傾向児に早期介入を行うことになりました。そのため、肥満度50%を超える肥満症の児の受診が増加しています。当科では脂肪肝、高血圧、糖尿病などの合併症のチェック、管理栄養士と連携した栄養指導などを行っています。対応に苦慮することなどがありましたら、内分泌外来担当医と協力の下、対応していきたいと考えていますのでご相談ください。



小児科外来

小児科部長（科長） 西村 秀子



近年、食に対する安全意識の高まりや特定原材料表示の義務化などから食物アレルギーが正しく認識、対応されるようになってきました。アレルギーの診断には血液検査に加え、食物負荷試験も重要です。負荷試験は診断だけではなく、除去を解除する際の判断にも大変有用です。検査が必要な場合はご紹介ください。

小児科医は3人体制で規模は大きくありませんが、「地域の医療は地域で完結する」ことを目標に頑張っていきたいと考えています。小児疾患のことで、お困りのことがあればお気軽にご相談ください。



5A病棟 小児科チーム
前列左から三人目より 西村先生、大谷先生、諸田先生

研修医から見た利根中央病院の魅力

2004年、医学部卒業後の臨床研修が必修化となり、当院ではこれまでに37名の修了者を輩出しています。また採用にあたり一定のアルゴリズムに従いコンピュータ上で研修先が決まる「マッチング制度」も同時に開始となり、病院ごとに研修医の採用数も設定されました。当院は6名の採用枠となっています。

常勤医の減少や総合診療科の開設、新病院建設を経て、医学生がどんな点に魅力を感じ研修先として当院を選んだのか、現役の研修医に聞き取りを行いました。

Q：当院を選んだキッカケは？

植野：もともと家庭医療に興味があり、そのご縁で。

林：自らの学ぶ意志を尊重している場であるから。

松本：広範な地域を担う救急病院だったから。

山田：研修体制が整っており、自己成長が早まると感じたため。

吉田卓：実習でお世話になった際に研修医への教育体制と地域性に興味を持ったこと。

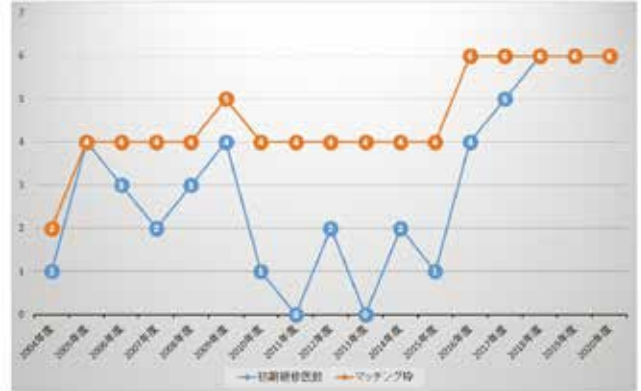
吉田佑：ホームページで研修プログラムを見て興味を持ち、実際の病院見学で指導体制が充実している所に魅力を感じて。

上原：アクティビティ補助制度※に惹かれて。

加藤：研修医にたいしての指導体制が整っているから。地元を支える病院として、学生時代よりお世話になっていたから。

鹿野：病院実習に来た際に積極的に患者さんに関わらせていただけだったので、良い研修が

【当院初期研修医 入職者数の推移】



できると感じた。

佐藤：医局内に研修医・指導医・事務の机があり、なんでも相談しやすい雰囲気があったこと。また研修医教育への熱意を感じて。

滝沢：研修医が自主的にやっている姿を見たから

橋本：総合診療科があること、救急対応の機会が多いこと。

※利根沼田内でスキー・スノーボード、ゴルフ、ウォーターアクティビティを行った際に、その費用を病院が負担する初期研修医限定の制度

Q：将来、どんな医師になりたいか？

植野：病気や不安を受け止める入り口としての役



1 年次研修医

後列左から：吉田佑貴（群大卒）、松本瑛未（群大卒）、吉田卓生（群大卒）
前列左から：植野貴也（群大卒）、山田知義（群大卒）、林佑志郎（筑波大卒）

割を果たしたい。

林：患者さんを大爆笑させることができる医師。

松本：患者さん個人の背景に寄り添った診療ができる医師。

山田：急性期から慢性期、小児から高齢者まで幅広い疾患や病態に対応できる医師。

吉田卓：患者さんやその生活に寄り添った関わり方を持てる医師。

吉田佑：患者さんの社会的背景も踏まえた診療ができる医師。

上原：医療事故を起こさない、安全な医療を提供できる医師。

加藤：患者さんを幸せにできる医師。

鹿野：患者さん自身の治る力をサポートできる医師。

佐藤：全身管理まで含む内科救急全般を専門とする医師。

滝沢：患者さんを思いやり、後輩の育成も行う医師。

Q：これまで研修してみての感想は？

植野：様々な症例を各科で勉強しつつ、救急科も同時に経験できて良い。

林：とても楽しく研修できている。

松本：毎日充実している。

山田：想像以上に研修医も主体的に診療に参画でき、上級医のしっかりとした監督のもと、自ら考えて対応する力が養われているよう

に感じる。

吉田卓：非常に多くのことを勉強させて頂いている一方で、自分に足りないところに気付かされることも多かった。これからも頑張りたい。

吉田佑：研修が始まって半年の時点でも多種多様な症例を経験できており、とても充実した研修が送れている。

上原：素晴らしい病院だと思う。

加藤：自分のペースでほどよく忙しく、自己学習もバランス良くできる。

鹿野：上級医の先生方始め、周りの方々がとても優しく親切にしてくださる。研修のサポートはとても手厚いと思う。患者さんも気さくに接して下さる方ばかりで、学ばせていただくことが多い。

佐藤：on / offを両立しつつバランスの良い研修が送れている。

滝沢：自由度が高い。

橋本：救急対応など苦手なこともあったが、医師として働ける自信をもつことができた。

Q：当院の魅力は何か？

植野：指導やバックアップが手厚い。

林：各々の信念を持って従事しているスタッフ。

松本：症例の幅広さ。

山田：担当する医療圏が広く多彩な症例を経験出来る点や指導医によるフィードバック体制

が整っており、自分次第で成長出来る環境になっている点。

吉田卓：雰囲気がとても良い。

吉田佑：研修医の内に多くの初期対応を経験できる点。

上原：コメディカルの方が優しい、研修医の裁量が多い、レクチャーなどが充実している点。

加藤：医療従事者と患者さんの関係、医療従事者同士の関係が強い点。

鹿野：地域の方がすぐにかかれる頼りがいのある病院だと思う。



2年次研修医

左から：上原弘聖（群大卒）、橋本健太郎（群大卒）、鹿野奈津美（群大卒）、滝沢大樹（群大卒）、佐藤慶一（産業医大卒）、加藤悠介（群大卒）

佐藤：アットホームな雰囲気。

滝沢：研修医が主体で色々やらせてもらえること。

橋本：厚い指導体制。

Q：利根沼田での生活はどうか？どのように楽しんでいるか？

山田：前橋から通勤しており、日々病院の窓から見える風景に心安らいている。落ち着いた沼田の美味しいお店などを巡りたい。

松本：多様なアウトドアが楽しめる。

吉田卓：とんかつ屋さんや温泉など楽しんでいる。自然も豊かで心も落ち着く。

吉田佑：自然に囲まれているから病院や自宅からの眺めがよく癒されています。温泉が多いの

も魅力的。

上原：居酒屋が多いため飲みに行きやすく、新潟に近く海釣りに行きやすく、山が近く登山がしやすい。

加藤：川、山、森など、季節に合わせて自然を楽しめるアクティビティがたくさんある。お酒はもちろん美味しいが、食事が美味しいお店もたくさんある。

鹿野：利根沼田地域の方はとても温かい。山が近く、登山はもちろんのことスキーやラフティングなど様々なアクティビティが楽しめる。

滝沢：過ごしやすい。休日には温泉やゴルフなど楽しんでいる。

11月1日より救急病床を開設します

当院は「救急体制の充実」を方針に掲げ、「断らない救急」を合言葉として、救急医療の提供と救急患者の受け入れを行っています。このためより多くの救急患者の受け入れを行うべく4月に救急科を立ち上げ、救急病床を開設することを決定しました。患者の安全性や利便性に配慮した病床となるよう現在建設中です。11月1日に開設予定です。



安全な救急患者受け入れを行うため、プロジェクトチームにて開設目的やスタッフ体制、対象患者、運用基準、凶面、必要物品などを検討してきました。看護部では救急病床について学習会を重ね、開設準備を行っています。

救急病床は1階の救急外来に隣接しています。病室は4床の多床室です。病室の他はナースステーション、トイレ、手洗い、汚物室等を設置します。入室対象は夜間救急外来を受診して入院が必要とな

る患者です。小児や妊婦、重篤な患者は今までどおりの受入病棟へ入院します。

救急外来に隣接する病床のため夜間救急患者の安全かつスムーズな入院受け入れが可能になります。また、病棟への移動距離が最短となり患者の負担軽減が見込まれます。救急外来と救急病床のスタッフ間の連携により患者の情報共有がしやすく、急な入院に対する患者へのサポートも充実させたいと考えています。